平成 30 年度予算主要事業の概要

（事業別説明資料）

消防本部

HIDA CITY
飛 驒 市

目　　次

地域消防力の強化 ・・・

拡充　地域消防力の強化

１ 事業費（単位：千円）

		【財源内訳】		【主な使途】	
	45,209	過疎債	44,400	備品購入費	45,174
		一般財源	809	需用費	35

（前年度予算　22,047　）

２ 事業背景・目的

市民の安全な暮らしを守るためには、高齢化等その時々の社会事情や地域特性に的確に適応した消防力の強化が課題になっています。平成28年に糸魚川市で発生した大規模火災は、木造建築物の密集地域で発生したもので本市においても教訓とすべき火災でした。

これを受けて、平成30年度には「木造密集地域指定及び活動計画」に基づく市街地での消防訓練を実施するとともに、消防団車輌を計画的に更新し地域消防力の強化を図ります。また、高齢者の割合が増えて子どもが少なくなる中、子どもの頃から命の大切さを学ぶ機会をつくり、住民全体で助け合いの意識を高める取り組みを行います。

３ 事業概要

①　【新規】「木造密集地指定及び活動計画」に基づく訓練の実施（ゼロ予算）

木造建築物が密集した地域では、火災が発生した場合、大規模火災になり得るリスクが高くなります。こうした前提に立った市街地での実践的な訓練を実施します。

②　【拡充】消防団車輌の計画的更新（45,174千円）

消防団の消防力を維持・強化するため、消防ポンプ車1台と小型動力ポンプ積載車3台を更新します。

③　【継続】命をつなごうジュニア・パラメディック・プロジェクト（35千円）

平成26年度から始めた「命をつなごうジュニア・パラメディック・プロジェクト」は、平成30年度に5年目を向かえ、当時小学4年生だった児童が中学2年生になります。平成30年度はこの5年間の取り組みの成果を検証し、今後の事業のあり方についても検討します。

※このプロジェクトは、小学4年生から中学2年生までの5年間に、消防署が救急救命事業の一環として出前講習を行うものです。

（款）　9 消防費	（項）　1 消防費	（目）　1 常備消防費　2 非常備消防費	
所　属	消防本部　℡0577-73-0119	予算書	P.109～110

拡充　救急活動体制の強化

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
15,170	ふるさと創生基金	12,800	備品購入費	12,558
	一般財源	2,370	負担金	2,071
			その他	541

（前年度予算　　504　）

２ 事業背景・目的

傷病者の救命率向上には、現場から医療機関に搬送する間の救急救命士が行える医療行為拡大に加え、質の高い心肺蘇生等が可能な機器の導入による救急体制の強化が課題となっています。

このため、救急救命士の養成を計画的に進めるとともに、気管挿管、薬剤投与など高度な救命措置ができる認定救急救命士の育成を進めます。

また、搬送する傷病者の心肺蘇生の効果を上げるため、自動式心臓マッサージシステムを新規に導入するほか、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を更新し、市民に高度な救急サービスを提供する環境を整えます。

３ 事業概要

①　【拡充】救急救命士の養成（2,612千円）

職員を救急救命東京研修所へ派遣し、救急救命士を新規養成します。あわせて、気管挿管、点滴、血糖測定、ブドウ糖溶液の投与等の医療行為が行える認定救急救命士を育成します。

②　【新規】自動式心臓マッサージシステム導入事業（9,085千円）

心肺停止患者に絶え間ない胸骨圧迫を行える自動式心臓マッサージシステムを導入し、心肺蘇生の効果を上げる環境を整えます。

③　【拡充】ＡＥＤ（自動体外式除細動器）更新事業（3,473千円）

ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を最新の機器に更新します。

※ＡＥＤ（自動体外式除細動器）は、心臓がけいれんし、血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対し、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

（款）　9 消防費	（項）　1 消防費	（目）　1 常備消防費

所　属	消防本部　℡0577-73-0119	予算書	P.109～110